

第3回 安渡地域復興協議会

日時：平成27年12月20日（日） 13:30～

資料：資料1 復興事業の進捗状況

資料2 安渡地域の計画とまちづくり課題

資料3-1 コミュニティを育むために何が必要か？

資料3-2 新年会兼同窓会について

別冊 安渡地域まちづくり課題図

資料 1 復興事業の進捗状況

復興事業の進捗状況

○防集団地 ③安渡小東
 事業規模：10戸
 進捗状況：準備工
 土地の買取：100%
 宅地引渡予定：H28年度下半期

○公民館・避難ホール
 進捗状況：基礎工事
 工事期間
 H27年9月～H28年11月
 供用開始予定：H29年1月以降

○防集団地 ②大仏様
 事業規模：13戸
 進捗状況：切土工事
 土地の買取：100%
 宅地引渡予定：H28年度下半期

○産業用地
 事業期間：H26年5月～
 進捗状況：土地の取得、造成に
 併せて誘致
 土地の買取：95%
 企業立地予定：誘致企業4社
 公募区画は使用予定者決定済
 (14事業者)
 一部未公募区画あり

○北側幹線道路
 幅員：6.0m 延長：730m

○災害公営住宅（県・町）
 戸数：80戸
 構造：戸建て、長屋、集合
 入居予定：H29年度上半期より順次

○土地区画整理事業
 事業面積：約5.9ha
 土地の買取：100%（減価買収）
 区画整理地内
 公営住宅用地買取：100%
 住宅着工可能時期：
 平成28年度上半期より順次

○防集団地 ①二渡神社
 事業規模：27戸
 進捗状況：伐採工事
 土地の買取：80%
 宅地引渡予定：H29年度上半期

○防集団地 ④古学校
 事業規模：19戸
 進捗状況：詳細設計作成
 土地の買取：99%
 宅地引渡予定：H29年度上半期

○防集団地 ⑤区画整理区域内
 事業規模：4戸
 進捗状況：土地の買取調整
 盛土造成工事
 土地の買取：92%
 宅地引渡予定：H28年度上半期
 ～H29年度上半期

○東側幹線道路
 幅員：6.0m 延長：970m

土地利用凡例	
	住宅エリア
	災害公営住宅
	産業エリア
	特定業務エリア
	公園・緑地
	公益施設

資料2 安渡地域の計画と まちづくり課題

1. 安渡地域の計画の確認

デザインノートで、安渡のまちを計画してきました。

■ 安渡地区デザインノート：まちづくりのコンセプト

安渡が大事にしてきたものを引き継ぐ

祭りや日常、子どもの遊び場とお年寄りの憩いの場、そして避難…

安渡ならではの暮らしや文化を絶やさないために、安渡の公共空間にはいろいろな機能を併せ持つことが大切

● すりきず広場（裏参道広場）

子どもが思い切り遊べる場所 + 避難時に車を乗り捨てられる場所

● 新学校側の坂道

安渡地区で最重要の避難路 + 新しい公民館につながる地域の幹線道路

● 湧き水広場

安渡の自噴井を引き継ぐ広場

スポーツや散歩の途中で水を飲んだり、休憩したり、観戦したりできる場所

● 大仏様の尾根

安渡の高台から海を眺められる場所を作る

● 旧県道・緑地帯と街並み～昔の浜のライン～

安渡の誰もが使う道路なので、安渡で一番気持ちのよい緑並木の通りにする

[地区別WGでの住民の意見]

(2) (3) 1125年度の地区別WG(第2-6回)での議論より
無印:1125年度の地区別WG以前の議論より

● 安渡地区のまちづくり

- ・人が集まる場所は安渡の財産とセットにする。
- ・海への眺望を大切に、海を見に行きたくなる街をつくる。(2)
- ・昔からある古いものを活かす。(2)
- ・御神輿の休憩のため広場スペースをネットワーク化して配置。(2)
- ・子どもが安心して学校まで通える歩道をつくる。(2)
- ・車での避難を想定したまちづくり。車の乗り捨てスペースを確保。(2)
- ・土地が狭い安渡だからこそ、「多機能」を公共スペースづくりのキーワードとする。(4)
- ・いまだ安渡で大事にしてきたものを引き継ぎたいので、「歴史」もキーワードとなるであろう。(4)
- ・御神輿のおとまりのスペースを各所に設ける。お祭りの時だけでなく普段も使えることが重要。(4)
- ・ここまで津波がきたということを示す碑を各所にもうけてほしい。(4)
- ・安全な通学路をつくることはとても大事である。歩道が必要。(4)

まちの中心となる施設

● 複合公共施設とグラウンド

安渡の歴史・文化を伝えていく、居心地のよい地域の中心施設
震災前から続く安渡の行事（祭りや運動会など）ができる広いグラウンド

● 中段の広場（表参道広場）

神輿の起終点・伝統芸能を披露する場として
ふさわしい風格と参道らしさのある広場

● 古学校側の坂道とポケットパーク

避難の方向がわかりやすい道・ポケットパークをつくる

新学校側の動線

古学校側の動線

ポケットパーク1

階段1

スロープ

階段2

ポケットパーク2

● 海に最も近い広場

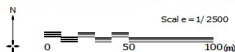
海づくり公園でやっていたようなイベントをここで
芝生の観客席に囲まれたイベント広場

● 海につながる遊歩道

歩いて海まで行ける道がほしい

● 海を見る高台

安渡では数少ない、海を眺める大事なポイント

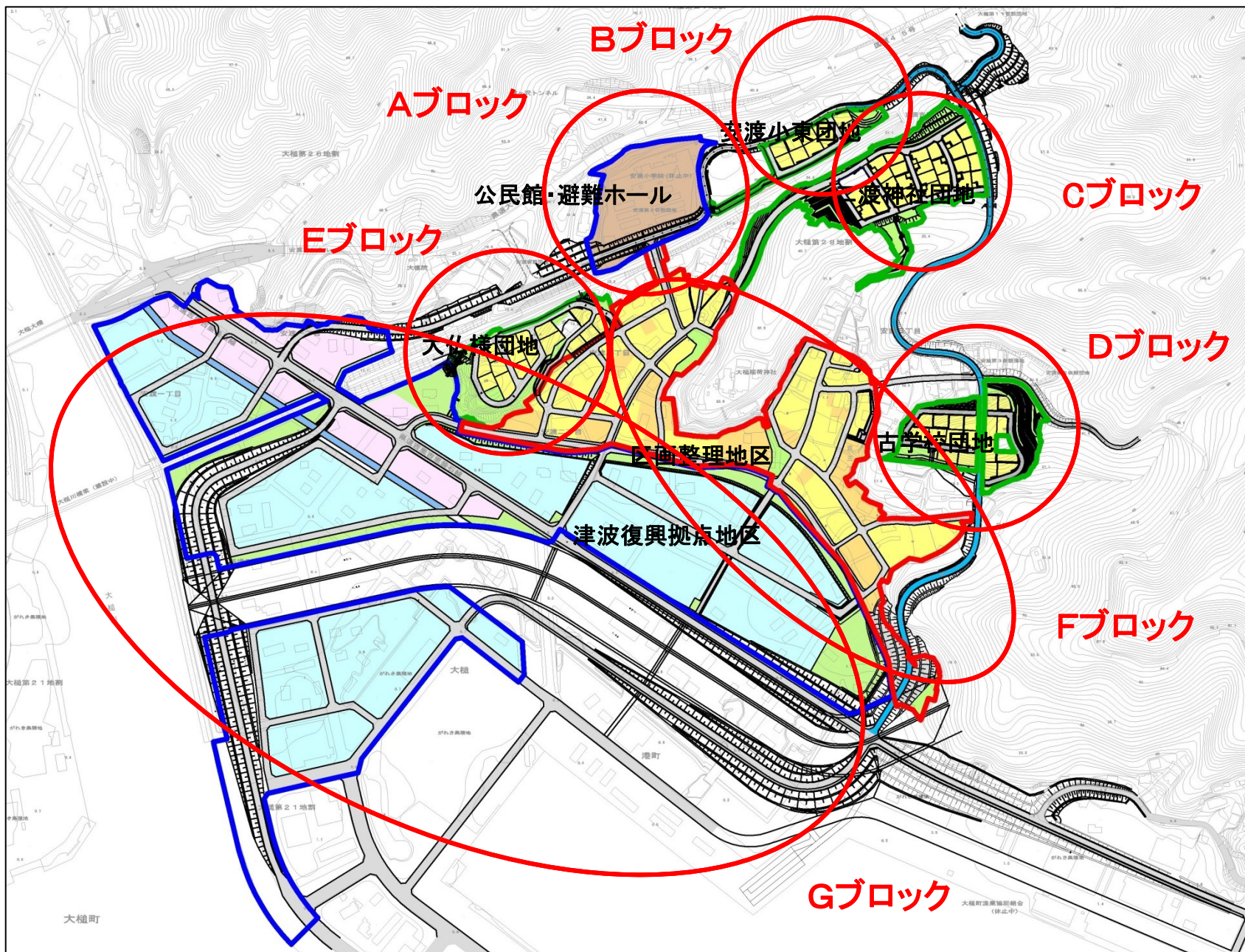


2. 安渡地域の人口・世帯数

震災前 (H22国勢調査)	人口		1,829人
	世帯数		745世帯
復興後 (予定)	世帯数	残っている世帯	89世帯
		防災集団移転	76世帯
		災害公営	66世帯
		区画整理(※)	36世帯
		合計	267世帯
	就業人口(産業用地)		100人超

※「住宅再建に係る最終意向調査(仮申込)」(H27.8末)の回答結果のため、実際の数値は変動する可能性あり

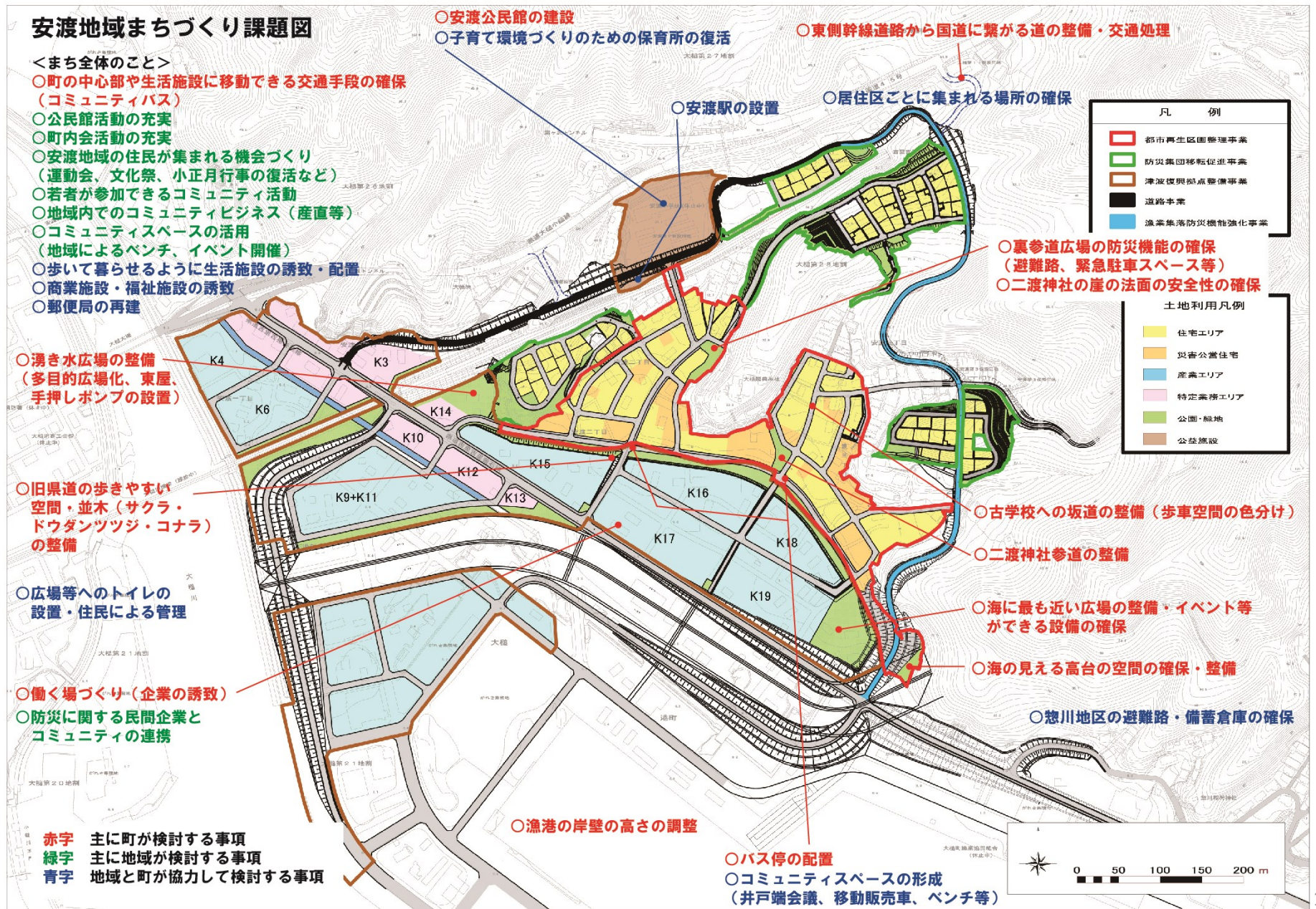
3. 復興のスケジュール (資料1より整理)



事業スケジュール

ブロック		H25	H26		H27		H28		H29		H30
			上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	
A	安渡公民館		工事				H29年1月以降供用開始				
B	安渡小東団地(10戸)			工事		住宅着工					
C	二渡神社団地(27戸)			工事		住宅着工					
D	古学校団地(19戸)			工事		住宅着工					
E	大仏様団地(13戸)			工事		住宅着工					
F	土地区画整理事業			工事		工事が完了した工区より住宅着工					
	土地区画整理地内 防集団地					住宅着工					
	災害公営住宅(80戸) (戸建19戸 長屋27戸 集合34戸)			災害公営住宅の建設		建設された災害公営住宅より入居					
G	産業用地		工事		造成等が完了した土地より産業施設の建設						

4. まちづくり課題 (これまで出された意見)



資料3-1 コミュニティを 育むために何が必要か？

1. コミュニティが必要なわけ

すでに公営住宅や広場ができ移住が始まったまちで聞かれる意見

「集会所やバス停まで歩いて行けない」

「外出する気持ちが湧かない」

「悩みを共有できる場がない」

「買い物が大変」

高齢化

子育て

「地域の担い手がない」

「子どもを遊ばせる場がない」

「ベンチやトイレがないから散歩に行けない」

安渡では、このようなことが起こらないように、ハード整備にあわせて、工夫できることを事前に話し合い、検討することが必要です。

これがコミュニティ戦略をつくる意義です。

(例) 災害公営団地 (高齢化率51%)

- 陸上競技場跡地の活用による早期整備
(着工から11か月のスピード竣工)
- コミュニティプラザ (ふれあいカフェ、生活支援) を併設
- エコ住宅 (太陽光発電、LED照明)

敷地面積：約2.3ha
 構造階数：RC造 3~4階建
 戸数：200戸 (2K：28戸、2DK：66戸、2LDK：65戸、
 3DK：23戸、3LDK：11戸、4LDK：7戸)
 ※今年度中に竣工する、東日本大震災に係る
 災害公営住宅の中で最大
 スケジュール：平成25年4月建設工事着工、
 平成26年3月28日竣工・入居開始
 同日、竣工式典を開催



(配置計画)



整備イメージ



2DK (50㎡)

3DK (65㎡)



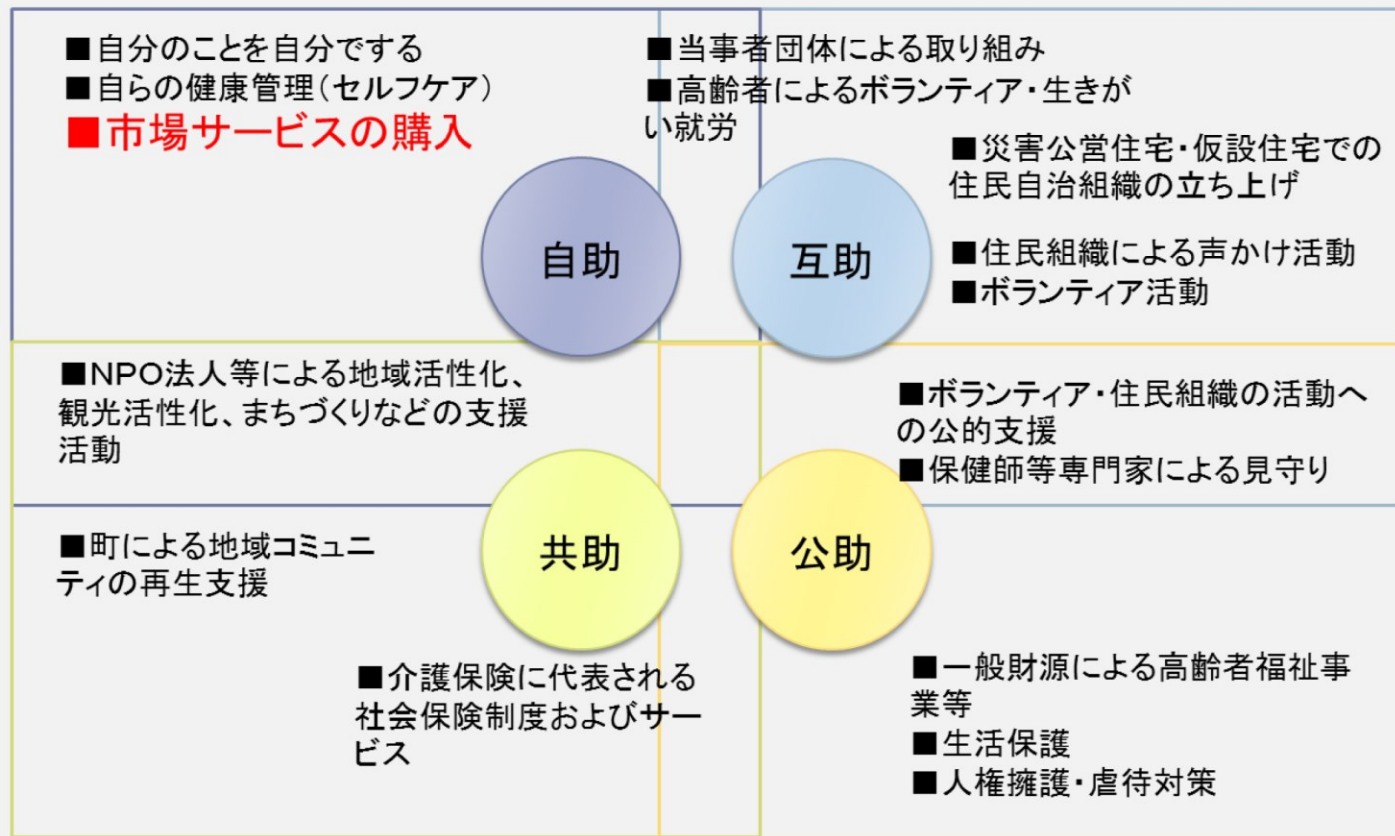
住宅外観 敷地北側からH26.3月上旬



※災害公営住宅敷地近傍にモデルルームを設置。

取り組むべき支援の考え方

～コミュニティの果たす役割としての互助・共助～



出典：地域包括ケアシステム構築における今後の検討のための論点(2013年3月三菱UFJR&C作成)資料に、空間に関する部分を著者加筆

- 町全体：コミュニティでつくる新しい大槌町(自助・互助・共助・公助の役割分担)
- 被災者支援・災害公営住宅：自治組織の立ち上げ(住民互助の建て直し)

2. コミュニティの再生に向けた様々な動き

コミュニティ活動の経過

	H25	H26		H27		H28		H29		H30
		上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	
コミュニティ活動	<ul style="list-style-type: none"> ● 町内会の再編 ● 防災訓練 		<ul style="list-style-type: none"> ● 闘球盤教室始動 ● 子育て環境勉強会 		<ul style="list-style-type: none"> ● あんど娘活動再建 ● コンビニ誘致の検討 ● 安渡地域同窓会の検討 ● 陣屋遊びの検討 					

※復興計画における期間の位置付け **復旧期** → **再生期** → **発展期**

復興事業のスケジュール

ブロック		H25	H26		H27		H28		H29		H30
			上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	上半期	下半期	
A	安渡公民館		工事						H29年1月以降供用開始		
B	安渡小東団地(10戸)				工事				住宅着工		
C	二渡神社団地(27戸)				工事				住宅着工		
D	古学校団地(19戸)				工事				住宅着工		
E	大仏様団地(13戸)				工事				住宅着工		
F	土地区画整理事業				工事				工事が完了した工区より住宅着工		
	土地区画整理地内防集団地							住宅着工			
	災害公営住宅(80戸) (戸建19戸 長屋27戸 集合34戸)				災害公営住宅の建設				建設された災害公営住宅より入居		
G	産業用地			工事						造成等が完了した土地より産業施設の建設	
支援員の配置			縮小			さらなる縮小の可能性					

3. これまでの課題の整理

(1) 地域の課題(○必要なこと、●あるとよいこと)

主に地域が検討する事項

- 公民館活動の充実
- 町内会活動の充実
- 安渡地域の住民が集まれる機会づくり(運動会、文化祭、小正月行事の復活など)
- 若者が参加できるコミュニティ活動
- 地域内でのコミュニティビジネス(産直等)
- コミュニティスペースの活用(地域によるベンチ、イベント開催)
- 防災に関する民間企業とコミュニティの連携

地域と町が協力して検討する事項

- 歩いて暮らせるように生活施設の誘致・配置
- 商業施設・福祉施設の誘致
- 郵便局の再建
- 広場等へのトイレの設置・住民による管理
- 子育て環境づくりのための保育所の復活
- 安渡駅の設置
- 居住区ごとに集まれる場所の確保
- 惣川地区の避難路・備蓄倉庫の確保
- コミュニティスペースの形成(井戸端会議、移動販売車、ベンチ等)

これらの課題をどのように、また、どのようなスケジュールで、解決していくかが課題。

(2) 生活の課題

現時点での課題・不安

- 仮設住宅での長期生活による生活のしにくさ
- 仮設住宅での長期生活による高齢者の虚弱化の進展
- 移動手段を持たない方の買い物等外出の不便
- 草取り・雪かきなどの環境維持
- ほとんど人と話さない、孤独、社会的孤立、相談相手がいない
- 緊急時の避難に支援が必要
- 子どもを一時預かってくれる人がいない

これらを公的な支援員ですべて解決するか、住民同士の支えあいや、外出を促す自立支援で対応するか。

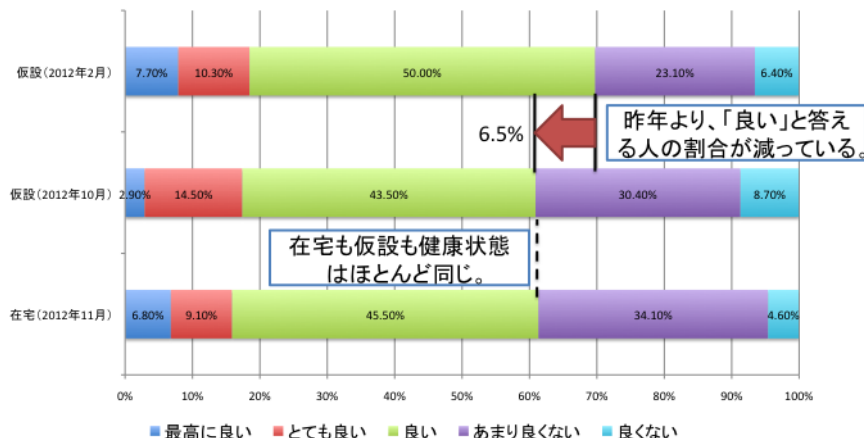
移行期・移行後の課題・不安

<今回はこの部分を検討します>

(3) 2年前の生活実態調査の結果からみる課題

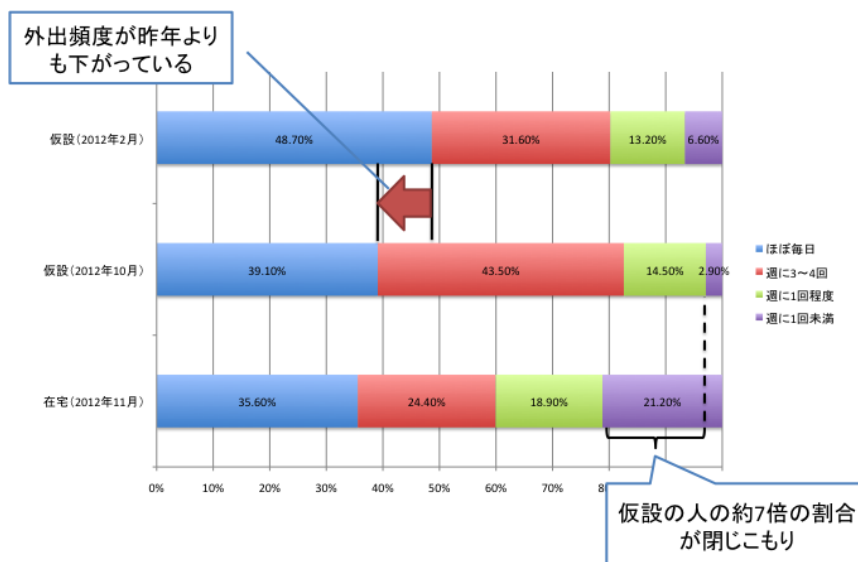
健康状態

仮設住宅での長期生活による生活のしにくさから健康状態が良くないと答える人が増え始めていた。



外出頻度

社会参加する場や外出する場が限られ、仮設住宅に住んでいない人は、閉じこもりの傾向になっていた。



4. コミュニティ戦略について

(1) コミュニティ戦略の重点テーマ

前回の協議会（7/5）では、コミュニティ戦略の重点テーマを以下の事項にすることが整理されました。

1) 高齢者の生活環境づくり

- ・健康に年をとる、居場所づくり、役割づくり
- ・住民同士の見守りシステム
- ・地域包括ケアシステム

2) 子育てコミュニティ・拠点の形成

- ・子育てしやすさ、安渡Uターン（安渡同窓会）
- ・保育機能を有する拠点、相談できる安心できる
- ・孤立しない子育て
- ・子どもがのびのび暮らせる（広場・居場所）

3) 昔の遊び・文化・歴史の継承



- ・生活文化の再興、安渡の誇り、歴史文化の風化防止
- ・コミュニティ観光の可能性
- ・元気な高齢者の健康・活躍の場づくり、多世代交流

4) 水産加工場等の立地企業とコミュニティの連携

- ・若者の就職場所、地域の活気
- ・保育機能を有する拠点、コンビニ、郵便局の整備可能性

(2) コミュニティ活動

現在実施している活動（青字）、震災前に実施していた活動（赤字）、これまで提案された活動（緑字）

重点テーマ	活動のイメージ	アイディア
<p>1) 高齢者の生活環境づくり</p>		<p><生活支援・支えあい></p> <p><交流の場づくり></p> <p>①お茶っこの会 ②ゲートボール ③さわやかウォーキング ④ストレッチ等の公民館活動 ⑤老人会</p> <p><閉じこもらない暮らしの拠点></p> <p>⑥生活施設の誘致（郵便局・漁協信用部 党） ⑦移動手段（町民バス等）の確保</p>
<p>2) 子育てコミュニティの育成</p>		<p>①ラジオ体操 ②夢ハウス・こどもセンターによる見守り ③親子料理教室・親子ふれあい教室 ④サマーキャンプ ⑤ユニホック等のスポーツ活動 ⑥ふるさと体験学習 ⑦子ども会 ⑧野球スポーツ少年団 ⑨保育園の復活 ⑩安渡地区のPTAの連携</p>

(2) コミュニティ活動

現在実施している活動（青字）、震災前に実施していた活動（赤字）、これまで提案された活動（緑字）

重点テーマ	活動のイメージ	活動のアイデア
<p>3) 昔の遊び・文化・歴史の継承</p>	 	<ul style="list-style-type: none"> ① 闘球盤 ① 防災訓練・防災活動 ② 伝統芸能 ③ 町内会活動の充実 ② 陣屋遊び ④ 運動会・芸能祭等の行事 ⑤ お祭り等 ⑥ 各種公民館活動 ⑦ コミュニティスペースの活用 ⑧ 居住エリア毎の小さなコミュニティ組織の形成 ⑨ 若者が参加できるコミュニティ活動 ⑩ 地域内でのコミュニティビジネス（産直等）
<p>4) 水産加工場等の立地企業とコミュニティの連携</p>		<ul style="list-style-type: none"> ① 企業と連携した防災訓練 ② 従業員の避難を想定した備蓄（惣川地区等）

5. 協議事項

①時間軸上での確認

行政や企業が関わることについて、どの時期にどのタイミングまでに実施検討されるか。その際、住民側に協力できることはなにか？

※たとえば保育所の整備はいつまで議論できるのか？ それまでに水産加工団地での保育ニーズ調査や安渡地域居住予定者の移行調査などはいつまでに行えばよいのかなど。

②移行期支援について

現時点・移行期・移行後における生活課題について、不安に感じることにについて意見を出し合います。

③コミュニティ活動について

現状で取り組んでいる活動を踏まえ、復活させるべき活動、新規に実施すべき活動について意見を出し合います。

※公助への依存は先々予算が減少すると苦しくなります。互助・共助による支え、また1人1人が地域に関わる関係づくりが重要です。

資料3-2 新年会兼同窓会について

安渡町内会新年会 兼 安渡地区同窓会

開催案内

実施日：平成28年1月11日（月） 11:00～13:30
※祝日、成人式の翌日

場 所：大槌稻荷神社（二渡神社）

参加者：安渡関係者ならどなたでも
内陸に移転している安渡出身者にも声かけ

会 費：1,000円／人（中学生以下は無料）

内 容：餅つき、鬪球盤ゲーム、郷土芸能披露
安渡の屋号地図披露
情報交換（安渡の地図に居住予定場所を記入）